

2026 年 1 月 14 日

太陽化学株式会社

CDP2025「気候変動」3 年連続、「水セキュリティ」2 年連続「B スコア」に認定

太陽化学株式会社（本社:三重県四日市市 代表取締役社長:山崎長宣）は、国際的な非営利団体 Carbon Disclosure Project（以下、CDP）による 2025 年度の調査において、「気候変動」分野で 3 年連続、「水セキュリティ」分野で 2 年連続となる「B スコア」の認定を受けたことをお知らせします。

CDP は持続可能な社会経済を目指し、世界の企業や自治体に環境問題への取り組みに関する情報開示を求め、評価・格付けを行う国際的な非営利団体です。



【「B スコア」の評価について】

CDP の評価は、開示、認識、マネジメント、リーダーシップの 4 つの主要分野におけるパフォーマンスに応じて、最上位の A から D-までの 8 段階で構成されています。当社が獲得した「B スコア」は上から 3 番目のスコアであり、マネジメントレベルに位置付けられています。これは当社が『「気候変動」および「水セキュリティ」に関連するリスクと機会を認識し、具体的な行動を取っていること』を示しています。

【当社の取り組みと今後の展望】

当社は気候変動への対応を持続可能な社会の実現に不可欠な重要な経営課題として認識し、取り組みを推進しています。脱炭素社会の実現に貢献すべくガバナンス体制を強化するとともに、事業への影響分析や気候

変動による成長機会の取り込みおよびリスクへの適切な対応を推進しています。今回の評価を励みとし、今後も環境改善に向けた活動を一層強化してまいります。また、CDP をはじめとする情報開示要請への継続的な対応や積極的な情報開示を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

備考：当社におけるサステナビリティ報告

<https://www.taiyokagaku.com/csr/>

【CDP について】

CDP は、2000 年にイギリスで設立した環境情報開示システムを運営する国際的な非営利団体です。世界の機関投資家や主要購買企業の要請に基づき、企業や自治体を対象に環境情報開示システムを運営し、環境対策を促進しています。2024 年には、24,800 社を超える企業と 1,000 以上の自治体が CDP 質問書を通じて環境情報を開示しました。世界の運用資産の 4 分の 1 以上を保有する金融機関が、投資や融資の意思決定に CDP データを活用しています。

【太陽化学株式会社について】

太陽化学(株)は“世界の人々の健康と豊かな生活文化に貢献する”ことを経営理念として掲げる食品原料メーカーです。研究開発型企業として、伝統的な天然素材から最先端技術を応用した新規素材まで様々な食材・工業用途素材を取り扱うと共に、無限の可能性を秘めた機能性食品素材の創造に取り組んでいます。

商号：太陽化学株式会社

代表者：代表取締役社長 山崎 長宣

所在地：〒512-1111 三重県四日市市山田町 800 番

設立：1948 年 1 月

事業内容：乳化剤、安定剤、鶏卵加工品、機能性食品素材等の開発、製造

資本金：77 億 3,062 万円

URL：<https://www.taiyokagaku.com/>

